

半月板治療のオーバービュー

副島 崇 (そえじま たかし)

久留米大学人間健康学部スポーツ医科学科
JCHO 久留米総合病院 ひざ・スポーツ外来

半月板は、衝撃吸収能、荷重分散能を併せ持ち、軟骨を保護する極めて重要な組織である。したがって、半月板治療の原則は、異常可動性を有する損傷部を縫合により元の位置に戻して安定化させること、もし不可能ならば、最小限度で切除して半月機能を可及的に温存することにある。

従来、血行野における縦断裂やバケツ柄断裂が縫合術の最も良い適応とされ、無血行野にとどまる損傷や技術的に縫合困難な複雑な断裂には部分切除が行われてきた。しかし最近では、さまざまな縫合機器が開発され、横断裂、root 損傷、水平断裂、フラップ状断裂などの複雑な損傷も技術的には縫合できるようになった。また、無血行野の断裂に対してもフィブリンクロット等を利用して治癒率をあげる試みがなされている。ただし、このような challenging な縫合は、未だ確実な治癒を約束できるものではなく、再手術やデバイスに起因するトラブルなども散見されている。また、縫合技術の進歩が術後のリハビリ期間を短縮することに全くつながっていないことも事実である。

スポーツ選手、特にトップアスリートにおいては、できるだけ早期に確実に復帰させることが最も重要である。早期復帰のために安易に切除することがあってはならないが、再手術のリスクも最小でなければならない。本シンポジウムでは、最新の半月板治療（リハビリテーションも含めて）の問題点を掘り下げ、スポーツ選手にとっての最適の治療について議論を深めたい。